

1. 概評

すべての項目で全学の平均よりも上回る数値はなく、また前期に比べ数値が改善された項目も半数あり、概ね良好と言える。その中で数値の高い項目として、No.1・4 があり、学生の意識を喚起すると共に、学生がより主体的に授業に取り組むための工夫を、今後も継続して重ねていく必要があろう。

[学生] 授業への取り組み、出席状況は、概ね良好であるが、シラバスの事前確認、また自主的な学習の面で、必修などの講義科目に学生の意識が低くなる傾向が前期同様に認められる。学生の主体性を引き出すよう、今後も継続して指導する。

[授業[内容]] 授業内容についての学生の理解度は概ね良好であり、[教え方等]の項目 (No.7～10) の数値が示すように、授業担当者が理解度を考慮した授業運営を行っているものと考えられる。

[授業[教え方等]] 教授方法については概ね良好で、授業内容の理解度の高さと通じるものと考えられる。不十分な科目は、前期同様に、学生数の比較的多い講義科目、また低学年向けの科目に認められた。学生間の理解度の開きも考慮しつつ、授業運営を行う必要がある。

[環境・設備等] 学習環境については、良好と認められる。参考資料についても、前期に比べ、数値として改善の傾向が認められるが、引き続き図書館と協力して、資料の整備を行う。また数値の高い科目に非常勤講師の担当科目が多く認められることから、今後の検討課題とする。

(各項目について、上手くいっているところと、問題点についてまとめる。良い状況、良くない状況双方ともその要因と対処策等について、出来るだけ他学科にも参考になるように記述する。)

2. 各項目の評価

各項目の科目ごとの評価(全般的な評価、上手くいったところと問題点の整理、高い点数、低い点数の科目の長所と問題点の整理等。次年度からは前年度までとの比較で記述する。)

no	学科平均	1 ≤ <2	2 ≤ <2.5	2.5 ≤ <3	3 ≤ <3.5	3.5 ≤ <4	4 ≤	評価と対策
1	2.3	10	52	30	5			前期に比べ、数値は改善したが、シラバスの事前確認については、必修科目を中心に確認が十分とは言えない。引き続きガイダンス、HR で学生の意識を喚起する。
2	2.0	41	49	6	1			前期同様、実習・演習の科目での意識が高く、必修などの受講人数が多い講義科目ほど低くなる傾向がある。
3	1.7	73	21	3				全般的に出席は良好と言える。数値の高い科目の傾向は特に指摘できない。
4	2.5	10	20	52	14	1		前期同様、低学年向けの講義科目に意欲が低いものも認められるので、学生の主体性を引き出すよう、積極的な働きかけを今後も継続して実施する。
5	2.2	15	65	14	3			前期に比べ、数値は改善し、概ね良好と言える。が、数値の高い科目は、シラバスの確認が十分でない科目に重なる。
6	2.1	45	42	6	3	1		前期同様に、全般的に学生の理解度に応じた授業運営がなされていると認められる。
7	1.8	60	29	5	1	2		前期同様に、全般的に良好と言える。数値が高い科目については、引き続き要因を慎重に調査した上で、必要に応じ、各担当者に対し、授業運営のあり方の再検討を求める。
8	1.7	67	24	3	1	2		前期同様に、全般的に良好と言える。数値が高い科目については、引き続き要因を慎重に調査した上で、必要に応じ、各担当者に対し、授業運営のあり方の再検討を求める。
9	2	42	39	11	2	1		前期同様に、全般的に良好と言える。前期に比べ、数値的にも改善の傾向が認められるが、引き続き、個々の教員がより効果のある方法を検討し、実施する。
10	1.8	65	28	1	3			全般的に良好である。前期に比べ、数値的にも改善の傾向が認められるが、引き続き、個々の教員がより効果のある教材を選択し、実施する。
11	1.8	77	16	2	2			学習環境はほぼ良好である。学生数の多い授業に多少数値が高くなる傾向が認められる。
12	2.2	17	54	25	1			前期に比べ、数値的にも改善の傾向が認められるが、今後も必要な資料を整備するように、図書館へ働きかける。また数値の高い科目に非常勤講師担当の科目が多く、今後検討を要する。

3. 今後の方針、教務部・大学への要望等

〈今後の方針〉

上述した通り、数値の高い項目（No.1, 4）に認められるように、本学科の学生に積極的な姿勢が十分でないことは従来から指摘されているところでもあるので、個々の授業運営において、学生の主体性を引き出す工夫を、今後も更に重ねていく必要があろう。

〈大学への要望〉

- ・ よりよい授業運営のための参考資料とするには、教員・学生に対し、授業改善アンケートについての意識を更に喚起する必要がある。
- ・ 資料として有効に利用するためには、迅速なアンケートの処理が望まれる。

1.概評

前回の学科平均と比較すると、No.3 の出席状況を除いて、評価は同等、または向上している。出席状況は、今期の全体平均との比較においても、唯一評価が低くなっている項目である。その他の項目においては、概ね良好な結果となっている。

[学生]

NO.1 (シラバスの事前確認) と NO.4 (授業外での自主的な学習) の評価が、他の 2 項目に比べ低い。シラバスについては必修・選択を問わず、事前確認をするようガイダンスなどを利用して学生に注意を促したい。授業外での自主的な学習については、学生が自律的な学習習慣を獲得できるような指導が必要と考える。

[授業[内容]]

授業の理解について学生は概ね良好と評価している。授業内容がシラバスと異なるという評価が見られるが、これは能力別スキルクラスにおいては、受講生の状況に対応した結果と推測される。

[授業[教え方等]]

学生は概ね満足しているようであるが、教員は授業方法を改善するための更なる工夫や努力が必要であろう。

[環境・設備等]

学習環境については良好という結果であるが、図書館の参考図書については必ずしも満足ではないようである。今後の改善が見込まれる。

(各項目について、上手くいっているところと、問題点についてまとめる。良い状況、良くない状況双方ともその要因と対処策等について、出来るだけ他学科にも参考になるように記述する。)

2.各項目の評価

各項目の科目ごとの評価（全般的な評価、上手くいったところと問題点の整理、高い点数、低い点数の科目の長所と問題点の整理等。次年度からは前年度までとの比較で記述する。）

no	学科 平均	1≤ <2	2≤ <2.5	2.5≤ <3	3≤ <3.5	3.5≤ <4	4≤	評価と対策
1	2.5	19	28	45	22	3		主に必修科目において評価が低い。ガイダンスや HR を通して学生にシラバスの事前確認を呼びかける。
2	2.0	54	49	13	1			演習科目の評価が高い一方、講義課目は評価が低い傾向が見られる。学生参加型の授業を心がける必要がある。
3	2.0	57	53	6	1			前回の調査結果、および今回の全体平均と比較すると評価はわずかながら低くなっている。
4	2.5	6	44	54	11	2		受講人数の多い科目で、低い評価の傾向が見られる。授業外の学習を促進する教科指導および環境整備が必要である。
5	2.3	27	41	44	5			必修のスキルクラスに、授業内容が予想と異なるという評価がみられる。能力別クラスのため、共通シラバスの進度を変更したケースなどが考えられる。今後は能力別クラスに応じたシラバスの記述が必要である。
6	2.0	56	42	16	3			授業の理解度については概ね良好な評価である。
7	1.8	73	28	14	2			説明の明快さについては、良好な評価である。
8	1.8	79	22	15	1			教員の説明は、十分聞き取れていると判断できる。
9	2.1	47	49	19	2			板書や視聴覚機器の使用は概ね良好と判断されるが、一層の改善をはかるため、設備の充実が求められる。
10	1.9	65	35	16	1			教材、資料については、適切であるという評価である。
11	1.7	88	27	2				学習環境については、少人数クラスに高い満足度が現れている。
12	2.4	13	49	52	3			ゼミや専門科目では評価が高いのに対して、必修のスキルクラスに低い評価の傾向がみられる。図書館の関連資料の確認、整備が必要である。

3. 今後の方針、教務部・大学への要望等

今後の方針

12 項目の中で最も評価が低かったシラバスの事前確認については、学年始めの教務ガイダンスで再確認し、HR や基礎ゼミを通して学生に周知徹底する。必修の（能力別）スキルクラスでは、共通シラバスを使用しているの、第 1 回目の授業で必ず授業内容を確認するように担当教員に再確認する。また、スキルクラスによって進度に変更がある場合は、必ず学生に説明し、変更を周知させる。

学生に授業外での自律的な学習をさせるためには、学習環境の整備と学習支援の体制作りが必要である。英語コミュニケーション学科では、DynEd という学習ソフトウェアを利用した自主学習を推奨している。今後はより多くの教科で DynEd を活用し、さらに多くの学生が利用するように改善していく。

図書館の参考図書については、学科として関係図書の確認および整備を進めていきたい。

教務部・大学への要望

FD の観点から、授業改善アンケートは必要であり、教員一人一人がアンケート結果を真摯に受け止め、今後の授業運営に反映させていくことが大切である。そのためにも、より公平な結果を得るため、アンケートの実施方法の改善（たとえば、担当教員がいないところでのアンケートの回答など）が必要だと考える。

1.概評

全体的には、学生はほぼ満足して授業を受けていると判断できる。評価が3.5以上になった科目はほとんどなく、前期よりも評価の低い科目が減少した。ちなみに授業評価がおこなわれたのは50科目に対してである。しいて課題を挙げるならば、大人数で全員が受講しなければならない必修の授業は概して辛い評価を受けやすく、授業の目的について学生と教員とのあいだで相互の理解が得られなければならない。

[学生]

授業への取り組みについては、シラバスの活用がされていない点と、授業外での自主的な学習がされていない点が指摘できる。

[授業[内容]]

シラバスと授業の内容との違いを指摘する学生がやや多かった。授業の内容は概ね理解できているようである。

[授業[教え方等]]

教員の教え方に対しては、全体としてみれば比較的评价が高かった。ただしここでも大人数の必修のいくつかの授業では、配布資料や教材に対する満足度がやや低かった。

[環境・設備等]

歴文では少人数授業が多いためか、学習環境に強い不満を持っている学生は、それほど多くないと思われる。とはいえ図書館の蔵書に対する不満は、まだ解消されていないようである。

(各項目について、上手くいっているところと、問題点についてまとめる。良い状況、良くない状況双方ともその要因と対処策等について、出来るだけ他学科にも参考になるように記述する。)

2.各項目の評価

各項目の科目ごとの評価（全般的な評価、上手くいったところと問題点の整理、高い点数、低い点数の科目の長所と問題点の整理等。次年度からは前年度までとの比較で記述する。）

no	学科 平均	1≦ <2	2≦ <2.5	2.5≦ <3	3≦ <3.5	3.5≦ <4	4≦	評価と対策
1	2.5	2	21	23	3	1		特に1年生に対して、オリエンテーション等を利用し、シラバスを確認するよう促したい。
2	2.2	13	25	12				教室内での取り組み方は、良好と評価できる。
3	1.7	42	8					毎時間授業で出欠をとることになっているのに、この設問を設ける必要があるのか再度検討したい。
4	2.7	1	7	28	14			課題の出し方によって、授業外で学習するかどうか大きく異なってくる。
5	2.4	4	23	20	3			シラバスの内容が実際の授業とどのように異なっていたのかを、具体的に自由記述欄で答えるよう促す。
6	2.2	13	22	14	1			授業内容の理解については、ほぼ問題ない。
7	2.1	22	17	10		1		説明が明快であったかについても、全般的には問題ない。
8	2.0	25	17	7		1		教員の説明も聞き取れているようで、問題はない。
9	2.2	12	23	13	1	1		教員の間で、機材の使い方に差があるあるかもしれない。学生の要望を把握したい。
10	2.1	16	26	7	1			配布資料や教材に対する学生の評価はほぼ高い。大人数の授業でさらに工夫がいるのではないかな。
11	1.9	29	17	3	1			満足度が高いのは少人数授業を実施しているためかと思われる。
12	2.6		18	28	4			教員による図書推薦をより積極的に図書館に申し入れていきたい。

3. 今後の方針、教務部・大学への要望等

今後の方針

- ・ 授業評価の結果を参考にして、授業内容を改善していくことを目的としているのだから、まず第一に授業評価の実施漏れがないように、授業担当者に呼びかけたい。また授業評価が形式的になり、形骸化することないように、個々の教員が授業評価の内容を検討し、自由記述欄に書かれたコメントに注目するよう、学科内でさらに明確なコンセンサスを作っていきたい。

教務部・大学への要望

- ・ 授業評価を実施する意義を、事前に全学的な形で説明するべきであると前回述べたが、平成 19 年度 4 月に実施した新入生ガイダンスでおこなった説明が理解されて、効果をあげたかどうか検討してみてはどうか。
- ・ 図書館の蔵書にたいする学生の要望をさらに正確に把握する努力を続けてほしい。教務部から図書館への申し入れはおこなわれているのであろうか。

1. 概評

全体としては良好であるといえるが、さらに現状を維持・改善させる努力が必要と考えられる。

[学生]

シラバスを確認していない割合がやや高めであるため、各教員に確認の徹底を要請する。また、学生の授業への出席率は非常に高いうえ、授業に積極的に取り組んだ学生が多かった。授業外での自主的な学習をする学生がやや少ないのは、もともと授業の課題やレポートが多く、これらを自主的な学習と捉えていないためであろうと考えられる。

[授業[内容]]

授業がシラバスで予想した内容とやや異なるとする評価もあったため、各教員にシラバスと授業内容の確認を要請する。

[授業[教え方等]]

授業の理解度や教員の説明の明快さおよび教員の話の聞き取りやすさは良好であったと考えられる。また、視聴覚機材の使い方や配付資料・教材も効果的であったと考えられる。

[環境・設備等]

学習環境は非常に良好であったと考えられる。図書館の資料についてはほぼ揃っていると考えられるが、不足している部分もあると思われる。

(各項目について、上手くいっているところと、問題点についてまとめる。良い状況、良くない状況双方ともその要因と対処策等について、出来るだけ他学科にも参考になるように記述する。)

2.各項目の評価

各項目の科目ごとの評価(全般的な評価、上手くいったところと問題点の整理、高い点数、低い点数の科目の長所と問題点の整理等。次年度からは前年度までとの比較で記述する。)

no	学科 平均	1≤ <2	2≤ <2.5	2.5 ≤ <3	3≤ <3.5	3.5 ≤ <4	4≤	評価と対策
1	2.4	1	8	8	3	0	0	シラバスの内容は確認されているが、まだ徹底されていないため、各教員に確認の徹底を要請する
2	2.0	5	11	4	0	0	0	授業に積極的に取り組んでいる割合が高い。
3	1.5	19	1	0	0	0	0	授業への出席率は非常に高い
4	2.7	1	3	6	10	0	0	授業外での自主的な学習機会は多くないが、授業の課題やレポートなどには取り組んでいると考えられる
5	2.3	3	6	10	1	0	0	シラバスで予想した授業内容とは異なるとする傾向の評価もあるため、各教員に内容の確認を要請する
6	2.3	4	6	7	3	0	0	授業の理解度は概ね高いと考えられる
7	2.1	9	3	6	2	0	0	授業時の教員の説明は概ね明快であったと考えられる
8	1.9	10	4	5	1	0	0	授業時の教員の話はよく聞き取れていると考えられる
9	2.2	7	3	4	6	0	0	板書・OHP・PowerPoint 等の使い方は概ね適切であったと考えられる
10	2.0	10	4	6	0	0	0	配付資料、教材等は効果的であったと考えられる
11	1.9	13	2	3	2	0	0	学習環境は非常に良好であったと考えられる
12	2.4	0	6	14	0	0	0	参考図書は図書館にほぼ揃っていると考えられるが、不足している部分もあると考えられる

3. 今後の方針、教務部・大学への要望等

全体としては良好であり、前回の調査結果と比べると、12項目全てに関して、評価が肯定的な方向に変化していた。今後も引き続き、現状を維持・改善させる努力が必要と考えられる。

授業開始時にシラバスの確認を学生に徹底させる必要があるほか、シラバスの内容と授業内容に齟齬がないかの確認を各教員に要請する。

授業の教え方等については、概ね明快でわかりやすいほか、聞き取りやすいと高く評価されている。また、授業の理解度に関しても、良好ではあるが、まだ改善の余地があると思われる。

設備面に関しても大きな問題はないが、図書館資料が充分ではないとの評価もみられたことから、学科としても、必要と考えられる図書をできるだけ揃えるよう、図書館への図書の購入依頼を積極的に行っていく方針である。

1.概評

[学生]

出席状況がきわめてよく、授業態度にも積極性がみられる点は高く評価できる。今後は、学期初頭に開催される教務部委員ガイダンスなどの機会を活用し、事前のシラバス内容確認、便覧における授業概要の確認などの指導をより強めていきたい。

[授業[内容]]

本学科においては、実技・演習科目の多い保育士系の授業、理論系科目の多い社会福祉士系の授業、理系的素養が多分に求められる2級建築士系の科目などが、授業形態、取り扱う内容ともに広範にわたって開設されており、総合的に評価することは難しい。シラバスに対する関心を喚起し、授業目的・内容の確認を促すことにより、講義内容のより適切な評価につながるよう努めていきたい。

[授業[教え方等]]

全体的に教え方(プレゼンテーション能力)についての評価は高い傾向にある。しかし、講義内容の理解度とは相関があるとは言い難い。エヴァリュエーションシートの活用や、質問の有無の口頭での確認などを行い理解度の向上に努めるほか、学生自身にも自己学習(予習・復習)の習慣づけを促していきたい。

[環境・設備等]

演習・実技の授業が多いにも関わらず、十分な広さあるいは機能を備えた教室が確保できていない状況にある。ゼミナール形式の授業ができる部屋の確保に努めていきたい。

2.各項目の評価

各項目の科目ごとの評価(全般的な評価、上手くいったところと問題点の整理、高い点数、低い点数の科目の長所と問題点の整理等。次年度からは前年度までとの比較で記述する。)

no	学科 平均	1≤ <2	2≤ <2.5	2.5 ≤ <3	3≤ <3.5	3.5 ≤ <4	4≤	評価と対策
1	2.6	4	22	28	17	3	0	資格必修科目が多いためか、事前確認をおろそかにする傾向がある。導入授業前に学生が自ら web 閲覧をするように指導していきたい。
2	1.8	47	18	9	0	0	0	平成18年度前期の結果と比較して、「積極的に取り組んだ」と回答する者が増加した。理論系科目・抽象度の高い科目については評価が低い傾向がある。
3	1.6	65	7	2	0	0	0	資格科目を多く履修していることとも関係して、出席状況はきわめてよいといえる。
4	2.4	14	23	26	11	0	0	演習、実技・実習科目で評価が高い。校外における実践場面があることと関連性があるものと思われる。
5	2.4	8	27	34	5	0	0	シラバスの事前確認指導と合わせて、授業担当者側には記載内容の定期的な見直しを求めている。
6	2.1	31	24	15	4	0	0	理論系、建築系科目の理解が難しいようである。保育士資格科目、社会福祉援助技術などの演習・実技系の理解度は高い。
7	1.8	51	9	12	2	0	0	「わかりやすい」と回答した学生が6割いる点は評価できる。今後は授業の合間、あるいは授業後に個別の質問の機会を設けるなどの工夫を行ってほしい。
8	1.7	53	12	9	0	0	0	「聞き取りやすい」と回答した学生が7割近くおり、全体的な評価は高い。マイクの使用が可能な教室が増えた効果もあるものと思われる。
9	2.2	22	27	18	6	1	0	教室の環境(ホワイトボードか黒板か)やプロジェクターが使用可能かということにも影響されるが、より適切な教授法について努力していく必要がある。
10	2.0	39	21	14	0	0	0	全体的に適切な傾向にあるが、より効果的な資料作成・配布について個々に工夫していく必要がある。
11	1.8	41	26	7	0	0	0	平成18年度前期の結果に比べて、「良好である」と回答した学生の割合がかなり増加した点は評価できる。
12	2.5	6	24	34	10	0	0	図書館および学科の資料室への図書・雑誌の整備を進めるとともに、卒論ゼミ等の中で、図書館等の活用方法について指導していきたい。

3. 今後の方針、教務部・大学への要望等

(1) 今後の方針

① 平成19年度からスタートする「新カリキュラム」の定着を図る。

- ・研究系科目の1年次からの積み上げ。
- ・援助技術演習系科目の内容と教授法の見直し。
- ・「基礎演習」の設置による導入教育の充実と総合的研究・実践能力の涵養。

② 学年ごと・資格ごとのガイダンスの実施(年度当初に行う)。

- ・これまで1年次を中心に行ってきた履修ガイダンスを、全学年に実施する。
- ・上記ガイダンスと併せて資格ごとのガイダンスを各担当教員から実施する。

(2) 教務部・大学への要望等

① 教室について

学生たちにより効果的で質の高い教育を行うために、よりシステマティックな管理・運営に努めていただきたい。具体的には、「各学科の所管の部屋」という考え方を改め、後発の学科にも授業内容と人数に見合った教室が配置されるよう、教育支援センターで一元的に管理していただきたい。

② 授業改善アンケートについて

アンケート結果について、回答の当事者である学生はもちろん、教員相互間のブラッシュアップの契機となるよう、個々の講義名・評価を公開するべきではないか。

1.概評

学生の評価は概ね良好と言える。全 12 項目の回答平均値は 2.2 であり、教員に対する評価は低くはない。昨年度の調査結果「全体的に学生の評価は教え方などに関しては、それほど低いものではなく」という報告に照らしみて、教え方については今年度もほぼ同様かそれ以上の評価を得ている。

[学生]

学生たちが授業に積極的に取り組んでいるかについては、全体平均の 2.0 と同様の数値であるが、出席状況については、全体平均の 1.8 よりも 0.2 ポイント下がった結果である。授業に出席することは基本であり、学生の意識向上に加え、実効が伴うように指導を行っていく必要がある。

[授業[内容]]

3.0 以上の教科は僅かに 4 科目であり、科目全体において授業内容は満足している評価を示していると思われる。

[授業[教え方等]] これに該当する設問である 7.「説明が明快でしたか」と 8.「話は良く聞き取れましたか」について、学生は共に 1.8 の評価をつけており、その他の関連質問項目においての結果も低くはない。教える側に対して比較的良好な評価を行っている。

[環境・設備等]

学習環境についての評価は、全質問項目の中では高い結果である。詳しく見ると少人数授業への評価が比較的高く、また、現状として教室の視聴覚設備機器が揃いつつあるので、その効果もこのような評価結果につながっていると思われる。しかし、参考図書等の整備については満足しておらず、この点を含めた学生の学習環境整備の向上を引き続き努めていきたい。

(各項目について、上手くいっているところと、問題点についてまとめる。良い状況、良くない状況双方ともその要因と対処策等について、出来るだけ他学科にも参考になるように記述する。)

2.各項目の評価

各項目の科目ごとの評価（全般的な評価、上手くいったところと問題点の整理、高い点数、低い点数の科目の長所と問題点の整理等。次年度からは前年度までとの比較で記述する。）

no	学科 平均	1≤ <2	2≤ <2.5	2.5≤ <3	3≤ <3.5	3.5≤ <4	4≤	評価と対策
1	3	4	9	20	27	11	3	全体平均の2.6を下回る3.0という結果からは、シラバスを通じた事前の授業準備が十分に行われていないのではないかと考えられ、今後指導が必要である。
2	2	24	39	9	2			2.0は昨年度と同様の結果である。 現代の学生の特質である元気パワー（積極性）をさらに引き出せるように努力していく。
3	2	44	17	8	4	1		全体平均1.8よりもやや低い2.0の結果である。
4	2.6	4	19	37	14			2.6の評価は真摯に受け止め、授業外の自主的学習を行うように、指導を行っていききたい。
5	2.5	8	21	40	5			シラバスを読んでいる学生が少ない中での評価である点を勘案しつつ、教員側にもシラバスを生かした授業内容を展開することを促していきたい。
6	2	33	31	10				全体平均2.1よりもやや良い結果2.0であるが、学生がより理解を深められるよう努めていく。
7	1.8	48	18	6	2			昨年度の評価2.0に対し、今回の1.8は先生方の努力が評価されたと考えられるが、多様な学生が入学しており、理解度アップの地道な努力は必要である。
8	1.8	49	18	7				1.8の評価は全体平均と同じであるが、昨年度よりも向上しており、教え方については概ね良好である。
9	2.1	18	32	20	3			全体平均と同じ2.1の評価であるが、昨年度の2.3より改善されている。一層の授業工夫を行いたい。
10	2	33	28	13				全体平均と同じ2.0であるが、昨年度より僅かに評価は良くなっている。
11	1.8	49	21	4				全体平均1.8と一致しているが、設備状況は他大でも充実してきており、現状評価に満足せず環境整備の向上に向けて、努力が必要であると認識している。
12	2.5	1	24	35	13			積極的に教員から参考図書の推薦を行い、学生に対して図書館の活用を勧めていくことが必要である。

3. 今後の方針、教務部・大学への要望等

アンケート調査結果は、授業運営上の参考とするが、クラスルームや、個人面談、ゼミ等の時間を通じて得られる学生の声も汲み上げて、これらの意見も、参考図書購入や教室の環境整備等に反映させていきたい。

現代教養学科の評価は、全般的に見て決して低い結果ではないことから、この結果を今後も維持すると共にさらにポイントアップをめざして、理解しやすい授業内容を実施するように教員サイドも努力していきたい。

学生対しては、シラバスの活用と授業外での学習時間を増やし、授業は欠席をせず積極的に参加するといった学習面での基本事項を指導徹底し、学生達の学習意欲と実力をさらに向上させていきたい。

1.概評

[学生]

・教職員免許等の取得もあり、専門の科目が殆どであり、欠席なしの学生が9割以上である。授業中の態度もよく真剣に学んでいる。

[授業[内容]]

・教職に関して理論と実践の両面から学んでおり、学習への参加意欲、態度も優れている。

[授業[教え方等]]

・具体的であり、視聴覚機器を駆使した授業もあり、わかりやすいとの評が有る。

[環境・設備等]

・80年館への移動に伴い、学習環境が改善された。

(各項目について、上手くいっているところと、問題点についてまとめる。良い状況、良くない状況双方ともその要因と対処策等について、出来るだけ他学科にも参考になるように記述する。)

2.各項目の評価

各項目の科目ごとの評価(全般的な評価、上手くいったところと問題点の整理、高い点数、低い点数の科目の長所と問題点の整理等。次年度からは前年度までとの比較で記述する。)

no	学科 平均	1≦ <2	2≦ <2.5	2.5≦ <3	3≦ <3.5	3.5≦ <4	4≦	評価と対策
1	2.5		3	8	3			<シラバス>は専門科目が多く確認不足。前年度より改善されたが指導の徹底必要。
2	1.7	10	4					積極的な<授業の取り組み>は評価。発言等の参加態度の向上を。
3	1.1	14						<出席状況>は9割以上が皆出席。
4	2.1	2	9	3				良好な出席状況の維持と<自主的な学習>のバランスの確保。前年度に比べ自主学習が増加。
5	2.3	1	5					<シラバス>に即した授業であったが、より計画的な授業の推進が必要。
6	1.8	6	7					<内容の理解>は十分では有るが、専門的な知識や追求の方法の獲得も考慮する必要。
7	1.7	8	5					<説明が明快>ではあったが、今後教育機器を駆使した授業改善を一層、検討。
8	1.6	11	2	1				<話はよく聞き取れてはいた>が、学生への話し方の工夫も必要。
9	1.9	7	4	3				<板書、o h p等の活用>は善かったが、さらに、教育機器を活用した授業改善の必要。
10	1.8	7	6	1				<教材、配布資料>は適切ではあったが、学生が作業できるなどの資料の工夫が課題。
11	1.6	13	1					80年館への移動に伴い、<学習環境>が改善され、充実した学修に取り組んでいる。
12	2.2		9	5				<図書館活用>を一層働きかけていく。

3. 今後の方針、教務部・大学への要望等

「今後の方針」

* 全体的に、各項目の学科平均の数値は改善・向上している。今後も、学生指導、授業充実に向けて努力したい。

1) 学生に関して

- ・ 授業中に置ける真摯な態度や良好な出席状況は大いに評価でき、さらに徹底させたい。
- ・ 授業展開の工夫等を通して、授業における積極的な発言や行動を促したい。
- ・ 免許等の取得にかかわり多忙な学生生活ではあるが、教師への志を更に高めたい。

2) 授業[内容]

- ・ 学部や学科の共通科目の履修の上、確かな理論に裏付けられた実践力のある教員を育てるため、一層授業内容を充実させたい。

3) 授業[教え方等]

- ・ より一層、視聴覚機器を駆使した授業を進めたい。

「要望」

1) 環境・設備等

- ・ 特になし

1.概評

全体的に授業は良好な状態にあるが、一部の講義科目では、授業の内容を理解できない傾向にある。これらの科目は学科の基礎的な科目であるため、少人数での授業を行うなど、理解度を高めるよう検討が必要である。

〔学生〕

授業には欠席をしないで積極的に取り組んでいる姿勢が認められるが、授業外で自主的な学習をしていないと答えた科目は、講義科目に多い。演習科目と同様に講義科目についても自主的な学習を促していく。

〔授業〔内容〕〕

授業内容が理解できない傾向にある科目は理系の科目である。特に平均点3.5以上の3科目については、授業内容の見直しや学力レベルによるクラス分けなどの検討が必要である。

〔授業〔教え方等〕〕

教え方は全体的には良好な傾向にあるが、理系の科目の一部では、工夫する余地がある。これらは受講者の人数も多く、学力の差が大きいことから、学力に応じたクラス分けを行い、理解度を高めるよう検討が必要である。

〔環境・設備等〕

学習環境は概ね適切であるが、参考書が図書館にあまり揃っていないようである。特に新任者の科目にその傾向があることから、推薦図書を奨励していく。

(各項目について、上手くいっているところと、問題点についてまとめる。良い状況、良くない状況双方ともその要因と対処策等について、出来るだけ他学科にも参考になるように記述する。)

2.各項目の評価

各項目の科目ごとの評価(全般的な評価、上手くいったところと問題点の整理、高い点数、低い点数の科目の長所と問題点の整理等。次年度からは前年度までとの比較で記述する。)

no	学科平均	1 ≤ <2	2 ≤ <2.5	2.5 ≤ <3	3 ≤ <3.5	3.5 ≤ <4	4 ≤	評価と対策
1	2.3	12	58	32	5	1		受講前にシラバスをあまり確認していない傾向がみられるが、全学平均2.6よりはやや良好である。
2	2.0	58	28	19	3			評価は1~2が最も多く、学生は積極的に授業に取り組んでいる姿勢がみられる。特に演習科目ではその傾向が強い。
3	1.9	60	37	9	2			出席状況は1~2が最も多く、学科の平均値は1.9であり良好な傾向にある。中でも演習科目は、出席が良好である。
4	2.3	37	19	30	21	1		講義科目では授業外で自主的な学習をしない傾向にあるため、課題等を出して自主的な学習を促していく。
5	2.3	20	45	37	6			シラバスは全体的に予想通りの傾向にあると答えた学生が多いが、記載内容の工夫も必要である。
6	2.2	34	32	32	7	3		授業を理解できないと答えた3.5以上の科目は3科目みられ、いずれも理系科目である。不得意な学生に対して授業方法を工夫する必要がある。
7	2.1	44	32	25	5	2		全体的には「説明は明快」と答える傾向にあるが、不明快と答えた3.5以上は理系の2科目である。学力の差があり、指導は難しいが、さらにわかりやすい授業方法の検討が必要である。
8	2.0	55	29	18	4	2		全体的には授業は聞き取れる傾向にあるが、聞き取れないと答えた3.5以上は2科目である。いずれも受講者100名以上のため、少人数での授業が必要である。
9	2.2	29	41	29	9			板書や教育機器の使い方は概ね適切な傾向にある。授業を理解しにくい授業では、これらの使い方を検討する必要がある。
10	2.2	34	44	24	6			配布資料は適切な傾向にあるが、授業内容が理解できない学生は、不適切と答える傾向にあるため、理解度の低い科目では教材等の検討も必要である。
11	2.0	55	30	16	5	1	1	学習環境は全体的には適切な科目が多かったが、3.5以上の2科目については、適切な学習環境になるよう対応したい。
12	2.6	7	22	59	18	1	1	参考書は科目によっては図書館にはあまり揃っていない傾向が見られる。特に新任者の科目にその傾向が見られるため推薦図書を奨励していく。

3. 今後の方針、教務部・大学への要望等

1) 今後の方針

講義科目、特に理系科目の理解度が低く、学生の満足度も低い様子が認められる。その一つの原因としては、学生数の問題が考えられる。受講生の多い科目は、授業の内容を理解しにくい環境にあるといえる。学力レベルによるクラス分け、少人数の授業を行うなど、きめ細かい対応が必要である。平成19年度前期は、入学時の基礎学力テストをもとに、理系の基礎科目の一つを3人の教員で担当した。そのFDアンケートの集計結果はまだ出ていないが、授業担当者からは授業の理解度が上がっているとの報告を受けている。現在の入試の形態では、理系が苦手でも入学できるため、授業内容を理解できない学生がますます増えるものと考えられる。また、今年度から建築学コースでは JABEE 認定プログラムを導入したため、一定の学力を確保する必要がある。したがって、学力不足の学生に対し、どのようなサポート体制を作っていくかが今後の重要な課題である。

2) 教務部への要望

授業に積極的に取り組まない学生が「授業が理解できない」、「説明が不明快」などと不満を訴える傾向が認められる。このようなアンケート結果に対してどう対応していくのかを検討する必要がある。

FDアンケートは、回収後すぐに分析しないと問題点を次の授業に反映できないため、速やかな対応が必要である。

3) 大学への要望

授業の理解度を上げるには少人数での授業を行う必要がある。演習系の科目では少人数の授業が多いが、理系科目では受講生が多いため授業を理解しにくい環境にある。1)で述べたように理系の基礎科目を今年度、学力レベルによるクラス分けと少人数の授業を試みた結果、授業の理解度が上がっているようである。今後は、このような授業を増やす必要がある。

受講生が多く、質問しにくい環境にある一部の授業では、昨年度から昭和コミュニティーを利用したブログ形式のQ&Aを検討しているが、まだ実施できない状況にある。授業の質問を学生とメールでやりとりするのは、授業担当者の負担が大きい。そのため受講者を対象にしたブログを始められる環境を整えていただきたい。

1.概評

[学生]

授業にはよく出席して積極的に取り組んでいる様子が伺えたが、栄養士資格必修科目では公欠の扱いがないため、出席に関する自己評価が厳しくなったものと考えられた。両専攻とも、出席、受講態度は良好であったが、学習態度としては受身である様子が伺えた。今後、学生が積極的に授業に参加するにはどのような工夫が必要か、検討したい。

[授業[内容]]

シラバスの内容と授業内容に若干のずれが生じるのは、学生の理解度や興味に対し、教員が敏感に対応しているためとも考えられる。授業内容を理解している様子が伺えるので、概ね良好であると評価している。ただし、この項目に関して、評価の低い学生が少数存在することから、広く深い理解が必要な資格必修科目では、授業運営、展開等に関して検討が必要と考える。

[授業[教え方等]]

授業内容の評価は概ね良好と考えられた。資格必修科目では、学生の希望とは関わりなく、授業を履修しなければならず、退屈を感じる場合もあると予想される。また、教科書以上に新しい知識を導入するためには、配布資料等も多くなりがちである。その点を考慮すると、今回の調査からは、授業は明快で、板書、資料等も適切であったという評価がえられたのではないかと考えた。

[環境・設備等]

学科で開設されている授業は単級で運営されており、学習環境は概ね良好と評価された。図書設備について不服を感じている学生が多いことが見受けられるが、これは、実験・実習のレポートが両専攻で重なり、ある期間に貸し出しが集中するためとも考えられ、図書館の利用状況等を確認する必要があると考えられた。

視聴覚設備に関しては、各教室にスクリーンを設置していただけるだけでも Power Point や DVD などの利用が可能となるため、対応を検討いただきたい。

(各項目について、上手くいっているところと、問題点についてまとめる。良い状況、良くない状況双方ともその要因と対処策等について、出来るだけ他学科にも参考になるように記述する。)

2.各項目の評価

各項目の科目ごとの評価（全般的な評価、上手くいったところと問題点の整理、高い点数、低い点数の科目の長所と問題点の整理等。次年度からは前年度までとの比較で記述する。）

no	学科 平均	1≦ <2	2≦ <2.5	2.5≦ <3	3≦ <3.5	3.5≦ <4	4≦	評価と対策
1	3		3	33	25	6	4	平均値は前セメスターから変化なし。資格必修授業が多いため、シラバスを検討する必要があると感じていないためと考えられた。
2	2	33	25	13	1			前セメスターに比し、0.1 ポイント改善された。学生は授業に積極的に取り組んでいた。
3	1.4	69	3					前セメスターから変化なし。出席状況は良好であると考えられた。栄養士資格必修科目では、公欠も考慮されないため、学生自身の評価が厳しくなったものと考えられた。
4	2.6	4	12	34	22			前セメスターに比し 0.2 ポイント改善された。レポートに追われ、それ以外の科目を自主的に学ぶ時間を作ることが難しかったためではないかと考えられた。
5	2.5	2	19	44	5	1		前セメスターから変化なし。学生がシラバスを確認していないため、評価できなかったものと考えられた。
6	2.3	18	28	17	5	4		前セメスターから変化なし。授業内容の理解が充分でないと回答した少数の学生への対応を検討すべきと考える。
7	2.2	26	25	10	6	5		前セメスターから変化なし。授業内容の理解が充分でない学生からの評価が低かったものと考えられた。広くかつ深い理解を必要とする必修科目が多いため、授業展開への配慮が必要であると考えられた。
8	2.1	33	21	9	8	1		前セメスターに比し、0.1 ポイント評価は低下した。単級開講ではあるが、マイクの設置を要望する。
9	2.3	17	25	20	8	2		前セメスターから変化なし。学生の知識の定着のためには、視覚に訴えること以上に、自らが聞き取り、考え、ノートにまとめていく作業が大事と考える。そのような点から、教員側の判断としては視聴覚設備の利用は現状が最大であると考えられる。
10	2.1	29	20	16	6	1		前セメスターから変化なし。授業内容の理解度の評価から配布資料、教材は適切であったと考えられる。
11	1.9	34	32	6				前セメスターから変化なし。授業は単級開講で運営されているため評価が高かったものと考えた。
12	2.5		29	36	7			前セメスターに比し、平均値の変化はないが、図書館が充実しているという回答が減少した。これは、図書が少なくということではなく、実験実習のレポート作成時に、学生が集中するためと考えられた。

3. 今後の方針、教務部・大学への要望等

生活科学科は、栄養士養成施設でもあるために、資格必修科目が多く、他学科の学生の状況とは若干異なる様相を呈していると思われる。必修であるがために、選択の余地なく、好むと好まざるとにかかわらず受講しなければならないし、また、実験実習が大変多く、時間的余裕に乏しく、希望の教養科目を受講しにくい、女性教養講座の受講も制限されるなどといった問題を抱えている。しかしながら、学生は授業によく出席し、授業態度も良好であり、この点に関しては高く評価したいと考える。一方で、受身になりがちな学生も存在する。これは、常に単級で授業が運営されているため、クラス内での役割分担のような状況が発生している可能性も考えられる。今後の課題としては、全員が積極的に授業に参加するための方策として、興味別クラスや習熟度別クラスのような授業運営なども検討すべきであると考ええる。

大学、教務部への要望として、FD 評価をセメスター終了時ではなく、セメスターの途中で行えるよう、ご準備いただきたいと考える。

1.概評

前回に比べすべての項目について評価が上がっており、改善がなされていることが見られる。また大学全体の平均値との比較においても項目3以外では同等もしくは良い評価が与えられている。この評価を維持できるように努めたい。

[学生]

項目3についての評価が大学全体の平均値よりやや悪くなっている。出席状況についての学生の反省の気持ちが出ているものと見られる。学生の自覚をうながすように指導していきたい。

[授業[内容]]

難易度の高い授業についてこられない学生のとまどいが若干見られるように思われるが、おおむね学生たちは理解できていると考えているようである。

[授業[教え方等]]

大学全体の平均値とほぼ同じ評価が与えられており、教員の努力のあとがうかがえる。教員の授業の進め方はおおむね的確であるようである。板書等についてはさらに工夫をするようにしたい。全体としてこの評価を維持すべく、今後の努力をうながすこととしたい。

[環境・設備等]

学習環境についての評価はおおむね良いようである。参考書等の充実については今後も教員側から図書館に積極的に図書を推薦していくように薦めたい。

(各項目について、上手くいっているところと、問題点についてまとめる。良い状況、良くない状況双方ともその要因と対処策等について、出来るだけ他学科にも参考になるように記述する。)

2.各項目の評価

各項目の科目ごとの評価（全般的な評価、上手くいったところと問題点の整理、高い点数、低い点数の科目の長所と問題点の整理等。次年度からは前年度までとの比較で記述する。）

no	学科 平均	1≤ <2	2≤ <2.5	2.5≤ <3	3≤ <3.5	3.5≤ <4	4≤	評価と対策
1	2.3	3 3	8 1	5 1	9	1	1	シラバスの事前確認はかなり改善されてきたようではあるが、さらに徹底をはかりたい。
2	2.0	7 2	6 7	3 2	6			前回と比べてかなりの改善が見られた。このまま推移を見守りたい。
3	2.0	8 2	6 7	2 2	2	2	2	このままで推移を見守りたい。
4	2.4	3 0	5 4	6 9	2 0	1	3	他の項目と比べると評価が低い。予習・復習を薦めるなどの指導を行っていきたい。
5	2.2	4 7	8 2	4 1	5	1		事前のシラバス確認が改善されてきたことと連動するように評価があがっている。大きな問題はないようだ。
6	2.0	7 5	6 5	2 8	8	1		理解できていると思っている学生が増えているようだが、実際に理解されているかどうかは別の評価がろう。
7	1.9	9 8	5 4	2 0	5			全般的に説明の明確さの評価は高いようである。このまま推移を見たい。
8	1.8	11 2	4 4	1 7	3	1		このままで推移を見たい。
9	2.0	6 5	6 9	3 6	6			おおむね適切だと判断されているようだが、さらに各教員の判断により改善を促す。
10	1.9	8 4	6 5	2 3	5			このままで推移を見守りたい。
11	1.8	11 7	4 9	7	3		1	学習環境については特殊な科目を除き大きな問題はないようである。
12	2.4	1 9	7 5	6 5	1 4	3		図書館に対して基本図書の購入をさらに要望したい。

3. 今後の方針、教務部・大学への要望等

前回以上に学生たちの評価は全体的に甘く採点されているように思われる。学生の側に FD アンケートについてのマンネリ感があるのではないだろうか。

結果だけから見ると、どこを改善していくべきかが見えにくくなっているように感じられる。前回も指摘したことだが、評価する学生が知的に成熟していることが肝心であるにもかかわらず、そのレベルに達していない学生が多いのではないか。

アンケート項目のうち、自由記述欄まで書いている学生はごく少数である。一方、アンケートの追加質問をしている教員はどのくらいいるのだろうか。今後アンケートに有効性を持たせるためにはより細かな設問により、問題点を明確にできるような配慮が必要ではないだろうか。

1.概評

[学生]

栄養士の他、栄養教諭、家庭科教諭、フードスペシャリスト等の資格取得という目的意識をしっかり持ち、勉学に励んでおり、出席も良好である。

各教科ごとに、課題やレポート提出を通し、授業時間外にもかなりの時間を使い学習しており、その分自主的学習という意識が低かったようだ。

[授業[内容]]

学生の理解度はおおむね良好であるが、科目による差も生じている。学生の得手不得手や学生間の理解力の差も踏まえ、授業担当者のさらなる取り組みに期待する。

来年度は特に基礎科目を少人数で徹底して教育していくシステムを導入予定。

[授業[教え方等]]

教材、資料、power point 等を用いた授業への取り組みが評価されおおむね良好である。さらなる工夫、改善をはかりたい。

[環境・設備等]

教室等については、おおむね良好との評価ではあるが、一部教室、実験・実習室によっては、十分なスペースを確保できていない現状がある。また、参考図書については、授業担当者が必要な図書の確認を行い、さらなる整備充実に向け、図書館へ働きかけていくことが必要である。

(各項目について、上手くいっているところと、問題点についてまとめる。良い状況、良くない状況双方ともその要因と対処策等について、出来るだけ他学科にも参考になるように記述する。)

2.各項目の評価

各項目の科目ごとの評価（全般的な評価、上手くいったところと問題点の整理、高い点数、低い点数の科目の長所と問題点の整理等。次年度からは前年度までとの比較で記述する。）

no	学科 平均	1≤ <2	2≤ <2.5	2.5≤ <3	3≤ <3.5	3.5≤ <4	4≤	評価と対策
1	3.2		2	20	21	12	5	資格関連の必修科目が多いためと考えられるが、今後オリエンテーション、HRで学生の意識を喚起する。
2	2.1	19	29	12				学生としては、積極的に取り組んでいるようだ。
3	1.7	48	12					全体的に出席状況は良好、一部学生には個別に指導を実施。
4	2.7		15	23	20	2		自主的学習がやや不足ぎみである。課題の提出など自主的学習を促す工夫を実践する。
5	2.7	1	5	45	9			ほぼ予定通りと評価。
6	2.3	14	25	18	3			科目による差、クラス間による差がみられるが、おおむね理解できていると評価。
7	2.2	20	22	16	2			ほぼ明快と評価。
8	2.1	23	21	14	2			ほぼ良好の評価。得点の高い科目については授業担当者に再検討を促す。
9	2.3	12	26	19	3			おおむね良好の評価。科目によるバラツキは見られるので、担当者によるさらなる工夫を実践する。
10	2.2	16	29	14	1			ほぼ良好の評価。
11	2.0	21	32	7				ほぼ良好の評価。使用する教室（実験実習室）によって得点に差が生じている。
12	2.5	3	20	34	3			自主的学習を促すためにも、さらなる図書の充実整備が必要と思われる。

3. 今後の方針、教務部・大学への要望等

今後の方針

- ・ 学生の理解能力、出欠席も含めた生活態度も二極化してきており、全体教育と同時に個に合わせた教育も、必要になると思われる。
- ・ 本学科は、必修科目が多いためか、シラバスの事前確認率が低かった。今後は学期始めのオリエンテーションや HR を活用し、指導を行いたい。
- ・ 本年度は、教職履修者を 1 クラスに集約したため、クラス間の人数格差が生じ、教室が狭いという評価につながったものと思われる。今後は、履修に関わらず、クラス人数を均等にと考えている。

教務部・大学への要望

- ・ 授業の 15 週実施を徹底しなければならないため、特別補講日を含めて、7 月末日までに終了するよう学年暦の整備をお願いしたい。
- ・ 本学科が使用している教室・実験実習室への視聴覚設備の充実・整備やスペース設備についての改善を希望する。

1.概評

[学生]

学生は、小学校教諭、幼稚園教諭、保育士になりたいという明確な意志をもって、勉学に励んでいる。出席状況もたいへん良好で活発で明るい学生が多く、授業外で子どもと接するボランティア活動などに参加する学生も数多くいる。

[授業[内容]]

教育・保育に関して、専門的なこと、実践的なことを詳しく学べるとの評価を得ている。反面、教員免許・保育士資格取得のためにかなり過密なカリキュラムになっていて、とてもたいへんだという声も聞かれるが、これはやむを得ないことである。

[授業[教え方等]]

授業は、おおむね、わかりやすくおもしろいという評価を多く受けている。

[環境・設備等]

教育・保育の専門教育を施すためにさらに施設環境を充実することが望まれていたが、平成19年度から80年館に移転し、施設面ではかなり改善された。

2.各項目の評価

各項目の科目ごとの評価（全般的な評価、上手くいったところと問題点の整理、高い点数、低い点数の科目の長所と問題点の整理等。次年度からは前年度までとの比較で記述する。）

no	学科 平均	1≤ <2	2≤ <2.5	2.5≤ <3	3≤ <3.5	3.5≤ <4	4≤	評価と対策
1	3.2	0	2	13	26	17	1	免許・資格取得のための必修科目が多く、選択の幅が少ないことが原因と思われるが、ガイダンス等でシラバスをよく読んで授業に臨むよう今後も指導していく。
2	1.9	36	20	3	0	0	0	授業態度、授業における積極的な取り組みについては、全般的に良好である。
3	1.5	55	4	0	0	0	0	出席状況は、全般的に極めて良好である。体調等の都合で休みが多くなる学生については、クラス主任を中心に、丁寧に個に応じた指導をしている。
4	2.5	7	17	29	6	0	0	カリキュラムの過密さ、課題等の多さも考慮しなければならないが、さらに教員・保育士に必要な資質を高めるための自主的学習に取り組めるよう指導していく。
5	2.6	1	21	35	2	0	0	設問1の回答傾向と関連している。シラバスの取り扱いについて、さらに検討を加える必要がある。
6	2.0	30	25	3	1	0	0	授業の理解については、ほぼ良好な評価を得ている。
7	1.9	36	18	4	0	1	0	説明の明快さについては、ほぼ良好な評価を得ている。
8	1.8	42	14	2	1	0	0	話がよく聞き取れたかについては、ほぼ良好な評価を得ている。
9	2.1	21	28	9	0	1	0	板書、OHP、PowerPoint等の使用については、科目の特性や科目担当者の授業観に関わる問題なので、一概に評価することは困難である。
10	2.0	33	18	7	0	1	0	配付資料、教材等については、科目の特性により状況が異なる問題なので、一概に評価することは困難である。
11	1.9	34	20	5	0	0	0	学習環境については、学科の場所が移転したため、今後の学生の評価の推移を見て検討しなければならない。
12	2.5	0	20	38	1	0	0	参考図書については、徐々に改善・充実に努めている。今後もさらに充実させる努力をしていく。

3. 今後の方針、教務部・大学への要望等

前回とほぼ同様の回答傾向であるので、引き続き、学生の授業態度・出席状況等の良好な面を維持しつつ、シラバスへの意識向上、自主的学習習慣の確立にむけてのアドバイスのサポートを行っていく。

なお、本学科は、人間社会学部初等教育学科に幼稚園・小学校教員養成課程が一本化されることに伴い、平成 20 年度をもって募集停止となる。そのため、今後、様々な面で学科環境の変化が生じてくるが、それらが学生にマイナスの影響を与えないよう、学生のサポートについては、あらゆる面において万全の体制で遺漏のないように行っていく。

1.概評

第二部では在籍者が少なく、10人以下の少人数授業も多いため、今回27科目の評価については、参考として見て戴きたい。しかしまた、その少人数授業のため、数値的には全体的に評価されている。単純な比較はできないが、前期の評価と比較して、各項目で、0.1～0.2ポイントの改善がみられる。

[学生]

学習態度は真摯であり、発言や質問もまじえ、積極的に授業に取り組んでいる。

しかし、学外での自主的学習は全体的に不十分といえる。仕事や家事の都合もあり、学習時間にはかなりの個人差がある。

学習意欲は認められるが、成績向上との相関は明確ではない。

[授業[内容]]

学生の授業理解度は個人差が大きい。またその格差、バラツキは演習・実習科目に顕著に表れている。

[授業[教え方等]]

シラバスや資料プリントの活用は、授業全体の把握や内容の理解に不可欠である。

使用テキストや授業内容のレベル設定が各教員にとって毎年の課題となっている。

[環境・設備等]

熱心に学校図書館に通う第二部学生もいるが、多くは時間的にむずかしい。

自主的学習を確保する時間的・空間的むずかしさが社会人学生に見受けられる。

地域図書館を休日等に利用する社会人学生もいる。

（各項目について、上手くいっているところと、問題点についてまとめる。良い状況、良くない状況双方ともその要因と対処策等について、出来るだけ他学科にも参考になるように記述する。）

2.各項目の評価

各項目の科目ごとの評価(全般的な評価、上手くいったところと問題点の整理、高い点数、低い点数の科目の長所と問題点の整理等。次年度からは前年度までとの比較で記述する。)

No	学科 平均	1≤ <2	2≤ <2.5	2.5≤ <3	3≤ <3.5	3.5≤ <4	4≤	(27) 評価と対策
1	2.0	12	12	1	1	1	0	シラバス内容の確認は概ね良好と思われる。授業全体の流れを把握する上で重要であり、学生本人が準備できない場合は教員が用意することもある。
2	1.8	14	13	0	0	0	0	学習態度は真面目であり、発言や質問も出る。多くの学生は積極的に授業に取り組んでいるが、学力差や疲労から無反応の学生も稀にいる。
3	2.0	17	7	2	1	0	0	社会人学生が8割ほどで、月末や繁忙期に残業で欠席や遅刻せざるを得ない学生もいる。このため長期履修制度は第二部にとって有難い制度となっている。
4	2.3	8	7	12	0	0	0	授業外や自宅での学習には個人差がある。仕事と勉学の両立はかなり難しい。自習時間の確保が課題である。
5	1.9	15	11	1	0	0	0	授業内容については事前に予想した通りとなっている。ただ、異なると判断したケースは、教員側に問題があったのか、学生側に問題があったのか、詳細は不明。
6	1.9	13	12	2	0	0	0	授業内容は、概ね理解されている。学生の日常生活や仕事に関連させた内容に評価が高い。学生のレベル把握が教員の毎年の課題である。
7	1.5	23	4	0	0	0	0	項目中高い評価がされているが、授業内容、使用テキスト、資料、説明方法を含め、総合的に判断をしたい。
8	1.5	23	4	0	0	0	0	No.7 と全く同様の結果である。少人数授業が多いことによると考えられる。
9	1.7	20	7	0	0	0	0	概ね高評価といえるが、演習や実習系科目の一部にばらつきがある。学生の個人差も考えられる。
10	1.5	25	1	1	0	0	0	社会人学生には、ほぼ適したテキスト、教材、資料といえるが、テキストにあって未使用部分が多い場合は、プリント配付で対応してほしいというニーズがある。学生に適切な教材選択に常に留意する必要がある。
11	1.5	25	1	0	1	0	0	学習環境は高評価であるが、これは少人数授業が多いことにもよる。また、共用教室の整理整頓に不満をもつ学生もいる。昼間使用の食物科学科との緊密な連携を図り、環境改善に努めていきたい。
12	2.2	5	15	7	0	0	0	評価の低い項目となっている。授業担当者から学生への参考図書の紹介やアドバイスが有益と思われる。

3. 今後の方針、教務部・大学への要望等

<今後の方針等>

- ・ 今回の文化創造学科第二部のカリキュラムには、夜間の一般教養教職のカリキュラムも含めると、在籍者(66名)に対して、科目数が110程あり、少人数授業が多くなっている。そのため、少人数ゆえの密度の濃い授業が展開されているが、閉講となる授業が生ずることもある。今年度は特に、英語スキル系、建築系の高い専門知識やスキルを目ざす科目に閉講となる科目が目立った。社会人が多く、授業時間外に学習時間を確保することの難しい学生に対し、これらの分野を夜間に置いておくことの検討も含め、昼夜連携の拡大など、文化創造学科昼夜全体の中での位置づけと将来像について、文化創造学科全体の課題として取り組んでいく。
- ・ 平成19年度は、文化創造学科第二部の完成年度(2年目)にあたり、2年次生に対しては基本的に平成18年度のカリキュラムを継承し、新1年次生に対しては、同学科夜間主コースのカリキュラムとして、昼間主コースと整合性のあるカリキュラムを再構築し、同時に大幅な科目の統廃合によるスリム化を図る予定である。
- ・ 平成20年度は、文化創造学科が平成19年度をもって完成年度をむかえることから、学生の状況とニーズをふまえ昼夜全体のカリキュラムの再構築をおこなう予定である。その中で、昼夜同時開講科目の充実による、科目の充実ならびに昼夜での科目の統合を行う。いくつかの科目では、昼夜の学生が同じ教室で受講することになるが、社会人の都合に合わせたレベル、進度での授業に配慮する必要性もあると考えられ、Eラーニング他、社会人の学びやすい環境の整備を進めていく。
- ・ 授業中はもちろんのこと、学生生活全般にわたる指導を継続していくことが重要で、個別指導の重要性が今後ますます高まることと思われる。自主的な学習への動機づけともなるであろうし、学生の理解度・ニーズ多様化の中で、個別指導の重要性を痛感している。

<教務部・大学への要望等>

- ・ 学生数は少数とはいえ、短大卒業に必要な単位数を、それぞれの学生の興味、関心、能力に応じて、おおむね学生たちの満足を得るためには、相当数の科目を用意する必要がある。
- ・ 夜の学生には、様々な面で特段のサポートを必要とする学生が少なくなく、クラス主任の役割は重要である。現状では、6・7講時の間は5分間であり、クラスルームの時間を設定できない。個々に学生対応ができるような時間の設定を検討したい。
- ・ 大学当局には、環境の整備や美化への協力を引き続きお願いしたい。

1.概評

一般教養科目では他分野よりシラバスがよく活用されていること、授業外での予習復習がなされていないこと、教室の広さ等での不満が多いことという、18年度前期のアンケートで明らかになったことが引き続き現れた結果となった。各質問の評価平均値も18年度と驚くほど似通っているが、学生自身の受講態度について回答のばらつきが大きくなった。今後の推移に注目して、比較・解析を行ないたい。

[学生]

一般教養科目では、学生が他の科目群よりシラバスを活用しているようで喜ばしい。逆に、授業外での学習が相変わらずなされていないようで、どのように改善すれば良いのかが今後の課題である。

[授業[内容]]

大きな問題はなく、授業運営は良好であると思われる。

[授業[教え方等]]

評価の平均値は前期とほとんど変わりなく、回答のばらつきは若干小さくなった。この分野についても、状況はかなり良いものと思われる。板書・OHP・パソコン等の使い方では、やはり回答に大きなばらつきが出た。

[環境・設備等]

クラス人数や教室の広さについての学生の不満は、相変わらず強い。後期は前期と比べて一般教養科目の受講人数が少なくなるので、評価は若干良くなるかと思っていたが、予想と異なっていたので、学生の不満は相当強いものと思われる。多人数の教室がもっと整備できないものかと考える。

2.各項目の評価

各項目の科目ごとの評価（全般的な評価、上手くいったところと問題点の整理、高い点数、低い点数の科目の長所と問題点の整理等。次年度からは前年度までとの比較で記述する。）

no	学科 平均	1≤ <2	2≤ <2.5	2.5≤ <3	3≤ <3.5	3.5≤ <4	4≤	評価と対策
1	2.5	12	59	39	10	6	1	一般教養科目では、他の分野よりシラバスが有効に活用されている。ただ回答のばらつきは前期より大きくなった。
2	2.1	36	67	23	1	0	0	予想と大差なし。
3	1.8	102	23	2	0	0	0	本学で出席が厳しく義務づけられていることとこの結果を合わせると、この結果は当然ではないかと思える。
4	2.9	6	13	55	38	14	1	他分野よりもかなり低い評価が出ている。授業外での学習を呼びかける努力が必要である。
5	2.4	10	60	48	9	0	0	予想と大差なし。
6	2.2	39	56	29	2	1	0	予想と大差なし。
7	2.0	68	42	16	1	0	0	予想と大差なし。ただし、回答のばらつきが前期よりかなり小さくなったので、良い結果と思える。
8	1.9	72	39	16	0	0	0	予想と大差なし。
9	2.2	35	52	30	10	0	0	教員の授業方法が多様であるために回答がばらついているものと思われるが、現状では問題がないのではないかな。
10	2.1	48	61	14	4	0	0	予想と大差なし。
11	2.0	66	37	20	3	1	0	人数の多さ、教室の広さに対する不満が出ている。教養科目のみが 80 人制限を撤廃したことが、原因のひとつと思われる。
12	2.6	0	24	93	9	1	0	あまりにも標準的な正規分布で、(逆に) 学生が適当に答えた結果ではなかろうかとも思えてくる。

3. 今後の方針、教務部・大学への要望等

- ☆ 外国語科目、教職専門科目などとの比較に加え、今回は平成18年度前期の同アンケートとの比較ができたことが大きかった。このような解析を長期にわたり行ない、年度による推移、前期・後期間の違いをみることで、本報告書を作成する最も大きな意味ではなかろうか。
- ☆ 一般教養科目では、18年度前期と後期で各項目の評価平均値にはほとんど差がなかったが、ばらつき（標準偏差）を比べたところ、いくつかの項目で変化がみられた。前回の報告書でも提唱したが、平均値のみを比べるのではなく、回答のばらつきも重視すべきである。
- ☆ 質問項目のうち、授業に関するもの（5番～10番）をもっとふくらませるのが良いと思う。
- ☆ 質問項目の問12は必要だが、学生にとって答えにくいように思われる。むしろ、「学習のために積極的に図書館を利用していますか」のような質問の方が適当ではないか。
- ☆ 学生から、相変わらず1クラスあたりの人数や教室の広さに対する不満が強く出ていることを考えると、やはり、一般教養科目のような多人数クラスの授業では、より良い学習環境を提供するための全学的な協力（多人数を収容できる教室の優先的使用、または多人数教室の増設など）が是非とも必要である。
- ☆ アンケートの実施は担当教員自身が行なっているが、特に人数の少ないクラスでは教員側に見えない形で行なわないと意味がないと思われる。担当教員以外の人が行なうのは無理があると思うので、何か良い方法がないか、検討していただきたい。

1. 概評

問1を除く他の設問では、3.5以上のクラスは多くて2クラスであり、概ね問題なしと認められる。問1についても、3.5以上のクラスが平成18年度前期に比べて大幅に減少した。

[学生]

出席状況は良好である。自主学習が少し劣っている。

[授業[内容]]

授業内容の理解が少し劣っている

[授業[教え方等]]

授業の説明、学生の聴き取り、板書、配布資料など概ね良好である。

[環境・設備等]

学習環境の評価は良好である。

(各項目について、上手くいっているところと、問題点についてまとめる。良い状況、良くない状況双方ともその要因と対処策等について、出来るだけ他学科にも参考になるように記述する。)

2. 各項目の評価

各項目の科目ごとの評価（全般的な評価、上手くいったところと問題点の整理、高い点数、低い点数の科目の長所と問題点の整理等。次年度からは前年度までとの比較で記述する。)

no	学科 平均	1≤ ＜2	2≤ ＜2.5	2.5≤ ＜3	3≤ ＜3.5	3.5≤ ＜4	4≤	評価と対策
1	2.6	15	55	68	54	7	2	後述
2	2	61	123	17				問題なし
3	1.8	139	58	1	2	1		問題なし
4	2.5	20	79	81	19	2		学生が自主的に学習できるよう、課題の提示などのアドバイスをする必要がある。
5	2.4	22	74	92	12	1		概ね問題なし
6	2.3	43	90	59	9			わかりやすい授業をよりいっそう心がける必要がある。
7	2	99	69	26	7			概ね問題なし
8	1.9	121	62	16	2			問題なし
9	2.2	46	100	48	6	1		概ね問題なし
10	2.1	74	89	36	2			概ね問題なし
11	1.8	131	64	4	1	1		外国語の授業は30人、40人の定員を設けているが、適正定員は20人～25人である。
12	2.6	5	41	132	23			図書館、総合教育センターの外国語参考書をより充実させる必要がある。

3. 今後の方針、教務部・大学への要望等

(1) 問1 (受講前にシラバスを確認しましたか) の学科平均値が 2.8、3.5 以上クラスが9クラスと他の設問に比べて数字的には悪いが、理由として次のようなことが考えられる。

- ① 1年目の外国語は前期後期を通しての授業であり、後期になってから特にシラバスを確認する必要はない。
- ② 2年生以上のクラスは、「ドイツ語でグリムを読む」のように授業名で授業内容が大体わかるようになっている。

平成 18 年度後期、問 1 の 3.5 以上クラスの割合は平成 18 年度前期に比べて大幅に改善されている。

問 1 の 3.5 以上クラスは 4.48% (平成 18 年度前期 10.76%)

(2) 学生にシラバスの意義をより徹底させる必要がある。

1.概評

一部受講者数が多い講義がある。今後も前期への偏りや年度によるばらつきが少なくなるように次年度も対処していきたい。

[学生]

資格取得のための講義がほとんどであり、学生の多くは真剣に受講している。しかし企業への就職もにらんでおり3年次に教員になると意識が定まるまでは本格的に取り組む事は難しいようだ。

[授業[内容]]

学生は資格をとるために学びたいので始めは目的の方向が異なっている。しかし、教員にならなくても学習内容は大人として次世代を担う子どもに関わる必要もあることに気づくと主体的になれるようだ。

[授業[教え方等]]

講師の方々に支えられている教職課程教科群である。多くの方々が学生が学びやすいように講義を工夫してくださっているのだと思われる。

[環境・設備等]

印刷資料を用いての講義が多々あるが、パワーポイントとビデオプロジェクターを駆使しての提示も増えてきている。講義者の要望を可能な限り満たす方向で視聴覚教室を使っていただくなどの配慮が講義に反映していると思われる。

(各項目について、上手くいっているところと、問題点についてまとめる。良い状況、良くない状況双方ともその要因と対処策等について、出来るだけ他学科にも参考になるように記述する。)

2.各項目の評価

各項目の科目ごとの評価(全般的な評価、上手くいったところと問題点の整理、高い点数、低い点数の科目の長所と問題点の整理等。次年度からは前年度までとの比較で記述する。)

no	学科 平均	1≤ <2	2≤ <2.5	2.5 ≤ <3	3≤ <3.5	3.5 ≤ <4	4≤	評価と対策
1	2.6	4	6	13	8	3		シラバスの内容で受講を決定する講義ではないので確認の必要感はない。
2	2	15	9	10				資格を取るために必要な講義のためか、教室の授業に積極的に取り組んでいる。
3	1.6	31	3					欠席の記録間違えに神経質になるほど出席状況を把握している。
4	2.5	6	10	13	5			3年になり教員採用試験を目指すときにならないと自主的な学習はしづらい。
5	2.4	7	9	14	4			シラバスを見ていないので授業内容を比較することは少ない。
6	2.2	12	10	12				生徒の立場では分かる事も教員の側にたつと想像できにくい内容が多い。
7	2	18	7	8	1			丁寧に講義が展開されているようだ。
8	1.9	18	10	4	2			明解な講義が展開されているようだ
9	2.2	12	11	8	3			板書、PowerPoint等の使い方は必ずしも適切とは言えない。
10	2	17	8	8	1			必要な資料、教材等は効果的に用いられている。
11	1.9	20	13	1				一部を除き多すぎる事の無いように配慮されている。

12	2.5	3	13	14	3	1		教育関係は必ずしも多く参考書等が図書館に揃っているわけではない。
----	-----	---	----	----	---	---	--	----------------------------------

3. 今後の方針、教務部・大学への要望等

各科教育法、教育実習の指導、総合演習などなどでは単に講義だけで終わる事はなく模擬授業を取り入れて、実践を考えての指導をしてきている。40人でも多いという声がある中、指導者の数を増やして講義枠を増し、一人でも多くの体験型学習の経験者を排出したい。

再来年度の教員免許状更新制スタートに合わせて、総合教育センター教職課程教科群は必修講習の開講を文部科学省に申請すべく準備中である。

また同じく再来年度から課程認定を受けるために、大学4年生の後期に置かなければならない教職実践演習(仮称)は、複数の教員がオムニバスで関わり、受講生は模擬授業などを課すので40人程度に押さえ、かつ教育現場経験者を指導者の中に必ず入れるようにとの指導がなされる中、それにも対応していく必要がある。

以 上